



プロファイラー・リモート
クイック・ガイド

免責事項、商標について

本マニュアル、および本マニュアルに記載のソフトウェアおよびハードウェアは使用許諾契約に基づいて使用されるものであり、使用および複製は当該使用許諾契約の条項に準じます。また、本マニュアルの内容は本機の機能を説明するためにのみ記載されるものであり、予告なく変更されることがあるとともに、本マニュアルの内容は KEMPER 社 (Kemper GmbH) が確約したものと解釈されません。

KEMPER 社 (Kemper GmbH) は、本書の誤記等に関し一切の責務を負いません。また、本書の使用許諾契約で許可される範囲以外の内容に関する複製および検索システムへの登録、または電子的手段、機械的手段、録音および録画、撮影、狼煙、その他いかなる手段における送信も、KEMPER 社 (Kemper GmbH) の書面による事前許諾がない場合、これを行うことはできません。

KEMPER™, PROFILER™, PROFILING™, PROFILE™, PROFILER PowerHead™, PROFILER PowerRack™, PROFILER Remote™, KEMPER Rig Exchange™, KEMPER Rig Manager™, PURE CABINET™, CabDriver™ は Kemper 社 (Kemper GmbH) の商標です。また本機の外観および仕様は、予告なく変更されることがあります。(2018年4月)

© Copyright 2018 Kemper GmbH. All rights reserved.

www.kemper-amps.com

目次

プロファイラー・リモート クイック・ガイド

ご購入いただいたリモートとは？	1
始めましょう！	2
接続方法	2
Up/Down ボタン (1)	3
Rig ボタン 1～5 (2)	3
TAP ボタン (3)	4
TUNER ボタン (4)	4
Effect ボタン I～III (5)	5
Effect モジュールを割り当てる	5
割り当てた Effect モジュールの解除	6
2つ目の Effect モジュールを割り当てる	6
さらに割り当てる	6
エフェクトを差し替える	6
割り当てをストア (保存) する	7
リモートを使わずに設定する	7
設定内容を確認する	7
アクション&フリーズ	7
ラッチとモーメンタリー (アンラッチ)	8
Effect ボタンをロックする	8
LOOPER ボタン (6)	9

エクスプレッション・ペダルや外部スイッチの接続	10
その他のセッティング	11
接続ケーブル	12
EN 規格	12
FCC	12
通信規制	13
安全上のご注意	13

ご購入いただいたリモートとは？

ケンパー・プロファイラー・リモートをお買い上げいただき、ありがとうございます。プロファイラー・リモートは、特にライブ・ステージにおいて、プロファイラーを自在にコントロールするために設計された専用フット・コントローラーです。双方向通信により、本体から電源供給を受け、本体の状態に関する様々な情報をリモートのディスプレイにも表示します。本体のファームウェア・バージョンに応じたリモート側のアップデートも自動的に行われます。

このクイック・ガイドでは、リモートを使い始めていただくにあたって、その概要を簡単にご説明しています。さらに詳しいご使用方法については、ファレンス・マニュアルの「プロファイラー・リモートとルーパー」の章をご参照ください。クイック・ガイドの内容は、適宜改善しておりますので、最新の情報はケンパーのウェブサイトをご確認下さい。

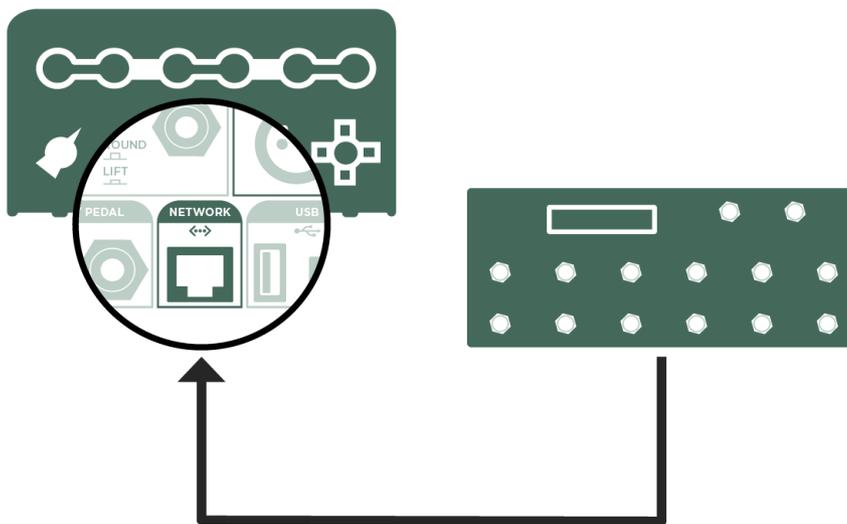
www.kemper-amps.com/start/

なるべく頻繁にチェックしていただくことをお勧めします。

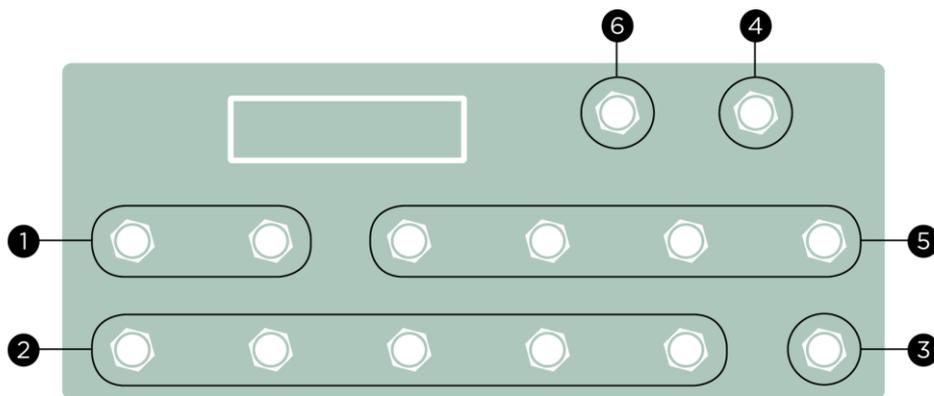
始めましょう！

接続方法

プロファイラーとリモートを付属のケーブルで接続してください。Neutrik®社の etherCON®はリモート側に使用し、確実な接続状態をロックすることができます。



プロファイラーの電源を入れると、リモートも一緒に起動します。この時、必要に応じてリモートの初期化やアップデートが自動的に実行されます。



Up/Down ボタン (1)

パフォーマンス・モード時には、このボタンによってパフォーマンスを切り替えることができます。短く押すとパフォーマンスがひとつずつ前 (Up) 後 (Down) に移動します。暫く押し続けるとスクロールが始まります。「Performance Autoload」が有効になっていると、切り替えた先のパフォーマンスのリグが直ちに読み込まれます。「Performance Autoload」が無効の場合は Rig ボタンが押されるまで待機状態になります。ブラウザー・モード時には、ブラウザ・プールにあるリグが順に切り替ります。切り替えやスクロールに現れるリグは、「View」の設定により、順番は「Sort Order」の設定に依存します。

Rig ボタン 1～5 (2)

これらのボタンは、パフォーマンス・モードではスロットの選択、ブラウザ・モードではリグの選択に使用します。

TAP ボタン (3)

このボタンは、プロファイラーのフロントパネルにある TAP ボタンと同様にタップ・テンポをトリガーします。4 分音符のタイミングでタップすることで、ディレイの他、フェイザーやフランジャー、トレモロのエフェクトをアジャストすることができます。LED は、現在のテンポ設定で点滅します。このボタンを長押しすると「Beat Scanner」が起動します。ギターをリズムにプレイすると、「Beat Scanner」がテンポを検出します。詳しくはメイン・マニュアルの「テンポ」の章を参照してください。

TUNER ボタン (4)

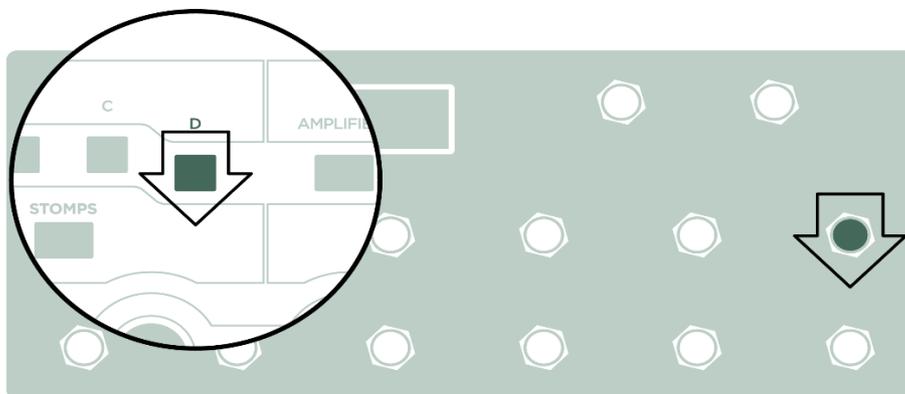
TUNER ボタンを踏むとチューナー・モードに切り替わります。本体のチューナー・モード画面で「Mute Signal」をオンにすれば、チューニングの間はギター音をミュートすることができます。

Effect ボタン I~III (5)

この4つのボタンには **Effect** モジュールのオン・オフを自由に割り当てることができます。エフェクトに含まれるトグル・タイプのパラメータをコントロールをすることも可能です。これらの設定状態はリグごとにストアされます。さらにそれぞれのボタンには、同時に複数のモジュールや機能のコントロールを割り当てることができます。

Effect モジュールを割り当てる

スイッチの設定はとてもシンプルです。リモートにある4つのボタンの中から使いたいボタン、例えば **Effect III** を押しながら、プロファイラー本体パネルの割り当てたいモジュールのボタン、例えば **[D]** のボタンを押すだけで完了です！



先にプロファイラー本体のモジュール・ボタンを押しながら、リモートの **Effect** ボタンを押しても同じようにアサインすることができます。アサインを完了すると、**Effect** ボタン左側の上の LED が、選んだモジュールにアサインされているエフェクトのカテゴリーに応じた色に点灯します。例えばワウであればオレンジというように。これでもうリモートのボタンによってエフェクトのオン・オフが可能になります。

割り当てた Effect モジュールの解除

既に割り当てたモジュールは、割り当て作業と同じ操作をすることで解除することができます。

リモートの **Effect** ボタン左の上のボタンが消灯し、何も割り当てられていないことを示します。

2つ目の Effect モジュールを割り当てる

同じボタンに別のモジュールを割り当てる場合は、そのモジュールのボタンとリモートの **Effect** ボタンで同じ操作を行ってください。今度は **Effect** ボタンの右の上の **LED** が割り当てたモジュールにアサインされたエフェクトのカテゴリ一色になり、その下のボタンがオン・オフの状態を示します。これで1つの **Effect** ボタンで、2つのエフェクトのオン・オフを同時にコントロールすることが可能になります。

さらに割り当てる

同じボタンにさらに別の **Effect** モジュールを割り当てることも可能です！但し **Effect** ボタンの **LED** でエフェクトのカテゴリ一やオン・オフを表示するのは、最初に割り当てた2つまでです。

エフェクトを差し替える

Effect ボタンは、モジュールにアサインされたエフェクトそれぞれを現在の状態から他方に切り替える、つまり **Effect** ボタンを押すと、押す前にはオンだったエフェクトはオフに切り替わり、オフだったエフェクトはオンに切り替えるということです。ということは1つの **Effect** ボタンに割り当てた複数のエフェクトを同時にオンにしたりオフにしたりするだけでなく、あるエフェクトをオンにすると同時に別のエフェクトをオフにするという動作に設定することも可能なのです。

例えば現在オンのモジュール **[D]**と現在オフのモジュール **[X]**を、同じ **Effect** ボタンに割り当てると、その **Effect** ボタンを押した時、**[D]**はオフになり、同時に**[X]**はオンになるということです。つまり**[D]**のエフェクトと**[X]**のエフェクトを差し替

えるような動作になります。同じ **Effect** ボタンに割り当てた複数のエフェクトの状態をシーンとして切り替えることができるのです。

割り当てをストア（保存）する

Effect ボタンの設定が完了したらリグをストアしましょう。設定はリグごとに保存され、それぞれのリグを呼び出したときに再現されます。

リモートを使わずに設定する

プロファイラーにリモートが接続されていなかったり、プロファイラーとリモートが離れた場所にあり、それぞれのボタンを同時に押せない場合でも、プロファイラー本体の操作で設定することが可能です。「**Rig Settings**」メニューの「**Remote Effect Buttons**」ページを開くと、LCD の上の4つのソフト・ボタンが **Effect** ボタン I ~ IIII の代用になり、何れかを押しながら割り当てたいモジュールのボタンを押すことで設定することができます。

設定内容を確認する

「**Remote Effect Buttons**」ページには4つの **Effect** ボタンの設定内容が全て表示されますので、設定内容を確認したいときに便利です。このページで全ての設定をクリアすることも可能です。

アクション&フリーズ

Effect ボタンは、オン・オフを切り替えるトグル動作の他、ロータリースピーカーの「**slow/fast**」や「**Delay Feedback Infinity**」、ディレイやリバープの「**Freeze**」機能を対象にする「アクション&フリーズ」を割り当てることも可能です。

例えばロータリースピーカー・エフェクトの「Rotary Speed Slow/Fast」パラメータを表示し、その上のソフトボタンを押しながらリモートの **Effect** ボタンを押すと割り当てが完了します。設定後はリグのストアをお忘れなく！

ラッチとモーメンタリー（アンラッチ）

Effect ボタンは、ラッチ動作とモーメンタリー（アンラッチ）動作の両方を自動的にサポートします。ボタンを短く押すとエフェクトのオン・オフが切り替わり、次に押すまでその状態が続きます。つまりラッチ動作になりますが、同じ **Effect** ボタンを1秒以上押し続けると自動的にモーメンタリー動作に切り替わり、ボタンを踏んでいる間だけオン・オフの状態が切り替わり、ボタンを放すと同時に元の状態に戻ります。例えばボタンを押していないときオフになっているエフェクトが、ボタンを押している間だけオンになり、ボタンを放した瞬間にオフに戻ることです。もちろん「アクション&フリーズ」にも適用可能です。アンラッチ動作をさせた後でも、短く押せばいつでもラッチ動作になります。

Effect ボタンをロックする

リモートの **Effect** ボタンに割り当てられたモジュールをロックすると、**Effect** ボタンの設定も同時にロックされ、リグを切り替えてもそのモジュールが同じ状態で維持され、そのモジュールが割り当てられた **Effect** ボタンの機能も維持されます。但しその **Effect** ボタンに複数のモジュールが割り当てられている場合、**Effect** ボタンはロックされません。

LOOPER ボタン (6)

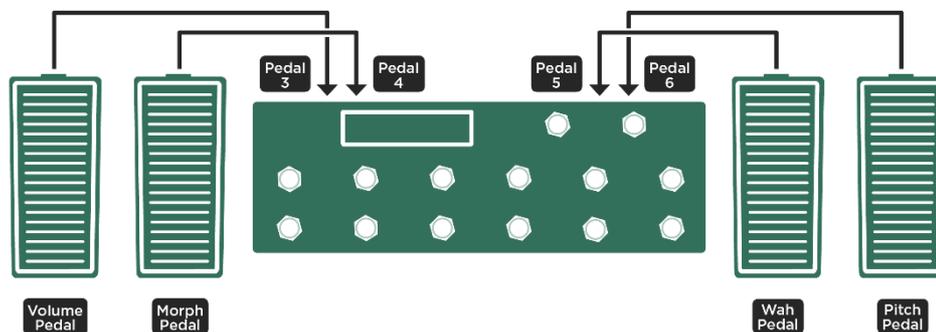
リモートを接続することで使用できるルーパーのために、以下のボタンが配置されています：

LOOPER	このボタンで、以下の6つのボタンをルーパー用の機能に切り替わえます。
	録音 / 再生 / オーバーダブ
	停止 / 消去：3回踏むと録音済みのループが消去されます。
	直前のオーバーダブをアンドゥ/リドゥします。
	トリガー：停止時にはループをスタート、再生時には先頭から再生し直します (リトリガー)。
	リバース：ループを逆方向に再生します。
1/2	ハーフスピード：録音/再生の速度が半分になり、録音できるループの長さが倍になります。

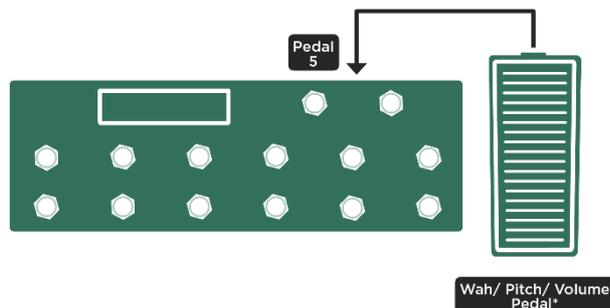
詳しくはメイン・マニュアルの「Looper」の章や、KEMPER ホームページにあるチュートリアル・ビデオをご参照ください。！

エクスプレッション・ペダルや外部スイッチの接続

リモートに装備されている4つの TRS ジャック : PEDAL 3 ~ PEDAL 6 にはエクスプレッション・ペダルやフット・スイッチを接続することができます。各ソケットに接続したペダルやスイッチの機能は、プロファイラー本体の「System Settings」のページで設定します。詳しくはメイン・マニュアルの「Expression Pedal and Foot Switch」の章や、KEMPER ホーム ページにあるチュートリアル・ビデオをご参照ください



リグの内容に応じて、同じペダルで異なる機能を使い分けることも可能です。これにより持参するペダルの数を減らすことができます。



REMOTE 3～6には、プロファイラー本体リアパネルの REMOTE 1 または 2 ジャックと同様にアンラッチのアナログ・スイッチ (PROFILER Switch 2 Way) 等を接続することも可能です。各スイッチの機能は、本体「System Settings」で設定します。詳しくはメイン・マニュアルの「Expression Pedals and Foot Switches」の章をご参照ください。リモートの PEDAL 3 ～ 6 に接続するペダルやスイッチに必要な仕様条件は、本体リアパネルの REMOTE 1 ～ 2 と同じです。メイン・マニュアル「Expression Page and Foot Switches」の章やチュートリアル・ビデオ「Expression Pedal and Switcher Basics」をご参照ください。

その他のセッティング

リモートの背面には LCD CONTRAST ツマミがあり、液晶画面のコントラストを調整することができます。その他の設定は、プロファイラー本体のシステム・メニューで設定します。つまり本体のバックアップに保存されるということです。リファレンス・マニュアルには「リモートとルーバー」の章があり、リモートのセッティングについても詳しく説明されています。

接続ケーブル

プロファイラー本体とリモートは、イーサネット・ケーブルを通じて双方向に通信します。プロファイラー・リモートに同梱されているケーブルには Neutrik® 社の etherCON® コネクタが使用されており、確実に堅固な接続を提供します。市販のイーサネット・ケーブルをご使用になる場合は、品質の高いものをお選び下さい。10m を超える距離でお使いになる場合は、電源付きハブをご使用下さい。電源付きハブを使用することで 100m まで延長することも可能です。詳しくはリファレンス・マニュアルをご参照ください。

EN 規格

本機 PROFILER Remote™ は、以下の EN 規格に準拠しています。:

- Emission EN 55022 – radiated emission
- Immunity EN 61000-4-2

FCC

ケンパー社 (Kemper GmbH Königswall 16-18, 45657 Recklinghausen Germany, Tel: +49 (2361) 9376824) は、FCC 規則第 15 章の指令に従うことを宣言します。該当する指令は以下の 2 項目です。:

- (1) 本機は有害な電波を発しない。
- (2) 本機は、たとえ好ましくない電波であってもその影響を受けない。

通信規制

この製品は、FCC 規則第 15 章の指令に従って検査され、デジタル機器クラス B の制限事項に適合することが確認されています。これらの制限事項は、居住地域での設置／使用における電波障害の発生を防ぐために規定されています。この機器は電波を発します。もし取扱説明書に沿った正しい使い方がされない場合、通信障害を引き起こす可能性があります。しかしながら特定の使用において電波障害を引き起こさないことが保証されている訳ではありません。もしこの機器がテレビやラジオの受信障害を引き起こし、この機器のオン／オフ等の操作によってこの機器が原因であることが確認された場合には、以下の何れか、または複数の組み合わせによって回避を試みて下さい。

- 受信アンテナの位置や方向を変える。
- テレビやラジオからこの機器を遠ざける。
- テレビやラジオの電源とは別回路からこの機器の電源を取る。
- 販売店またはテレビ／ラジオの専門技術者に相談する。

ケンパー社 (Kemper GmbH) の明確な許諾無く製品の改造を行うと、使用者としての権利を失うことになります。

安全上のご注意

- これらのご注意事項をよくお読み下さい。
- これらのご注意事項をご理解ご記憶下さい。
- すべての警告に従って下さい。
- すべての指示に従って下さい。
- 本機を水のそばで使用しないで下さい。
- お手入れにおいては、柔らかい布で乾拭きしてください。
- これらのご注意事項に沿って、適切な場所に本機を設置してください。
- 熱を発する物や機器（アンプ等を含む）のそばに設置して使用しないでください。
- ケンパー社 (Kemper GmbH) が認めた周辺機器、アクセサリ等以外は使用しないで下さい。

- 本機の修理は、必ずケンパー社 (Kemper GmbH) が認める修理技術者にご依頼下さい。本機の上に水をこぼしたり、雨や霧にさらしてしまったり、落としてしまったりしたことで本機が正しく動作しなくなった場合は、専門技術者による点検／修理が必要です。
- 本機をしずくや水はねにさらさないで下さい。本機の上に飲み物など、液体の入ったものをおかないで下さい。
- 本機を野外、露天、炎天下で使用しないで下さい。